

大学院医学系研究科 看護学専攻  
博士後期課程

---

# 講義概要

---



滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

# 目次

【授業科目及び単位数表】 .....	3
--------------------	---

## 【講義概要】

### 共通科目

グローバルコミュニケーション論.....	4
医療倫理学.....	7
看護教育学.....	9
看護医療統計学.....	12
保健医療行政論.....	15

### 部門別専門科目

生涯発達看護実践科学部門	生涯発達看護実践科学特論.....	18
	看護病態管理学特論.....	21
	NCD 看護疫学特論.....	24
	科学的根拠と看護実践.....	(掲載なし)
ケアシステム創成看護科学部門	コミュニティケア特論.....	27
	看護管理学特論.....	29
	ケアシステム創成看護科学特論.....	32
	ケアシステム創成看護科学演習.....	(掲載なし)

### 特別研究科目

看護学特別研究.....	36
--------------	----

令和6年度 看護学専攻博士後期課程授業科目

区分	研究領域/部門	授業科目	授業形態	配当年次	必修・選択	単位数	時間数
共通科目		グローバルコミュニケーション論	講義	1～2通	必修	2	30
		医療倫理学	講義	1～2通	必修	1	16
		看護教育学	講義	1～2通	選択	1	16
		看護医療統計学	講義	1～2通	選択	2	30
		保健医療行政論	講義	1～3通	選択	2	30
部門別専門科目	実践生涯発達看護学部門	生涯発達看護実践科学特論	講義	1前	必修	2	30
		看護病態管理学特論	講義	1前	必修	1	16
		NCD看護疫学特論	講義	1後	必修	1	16
		科学的根拠と看護実践	演習	2前	必修	1	30
	創成ケア看護科学部門	コミュニティケア特論	講義	1前	必修	1	16
		看護管理学特論	講義	1前	必修	1	16
		ケアシステム創成看護科学特論	講義	1後	必修	2	30
		ケアシステム創成看護科学演習	演習	2通	必修	1	30
特別研究科目		看護学特別研究	演習	1～3通	必修	6	180

※令和7年度初開講

※令和7年度初開講

講義コード	6000010
講義名	グローバルコミュニケーション論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	加藤 穰	医療文化学講座（英語）

### 学修目標(到達目標)

世界の最先端の看護研究にアクセスするために文献検索および文献のクリティークをおこなう方法を理解し、英語で自身の研究成果を発信するために必要なプロセスを理解することで、研究発表や論文執筆をおこなう基礎能力を修得する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

世界の最先端の看護研究にアクセスし、自身の研究・臨床に活用し、世界の看護学研究者へ向けて英語で発信することができるための能力を養成する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	加藤 穰
	項目	文献検索、論文のクリティーク、リソースについて
第2回	担当教員	加藤 穰
	項目	文献検索、論文のクリティーク、リソースについて
第3回	担当教員	加藤 穰
	項目	論文の構成、パラグラフの構成、倫理委員会での承認、謝辞、文献について

第4回	担当 教員	加藤 穰
	項目	論文の構成、パラグラフの構成、倫理委員会での承認、謝辞、文献について
第5回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学術雑誌、国際会議、執筆要領、その他関連事項について
第6回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学術雑誌、国際会議、執筆要領、その他関連事項について
第7回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学会での口頭発表で使える表現をマスターする
第8回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学会での口頭発表で使える表現をマスターする
第9回	担当 教員	加藤 穰
	項目	英語論文の執筆に使える表現、フォーマル/インフォーマルな表現、有用な動詞、接続詞、確率を表現する助動詞、時制、各セクションでの注意点について
第10回	担当 教員	加藤 穰
	項目	英語論文の執筆に使える表現、フォーマル/インフォーマルな表現、有用な動詞、接続詞、確率を表現する助動詞、時制、各セクションでの注意点について
第11回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学術誌の選定、英文校正について
第12回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学術誌の選定、英文校正について
第13回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学術誌への投稿の実際、エディターとのコミュニケーションについて
第14回	担当 教員	加藤 穰
	項目	学術誌への投稿の実際、エディターとのコミュニケーションについて
第15回	担当 教員	加藤 穰
	項目	まとめと振り返り 自身の研究内容について英語で説明するスライドの共有

**授業形式・授業形態**

演習・セミナー形式

**成績評価方法（成績評価基準を含む）**

授業の中でのやり取り、受講者自身の研究課題に関する論文についてのレポート、自身の研究内容について英語で説明するスライドに基づいて総合的に評価する。

<基準> ①課題を的確にとらえているか ②発表内容が一貫してまとめられているか ③自己の考えが論理的に述べられているか ④提示する資料の構成がわかりやすいか ⑤英文投稿の実現性がみられるか

**オフィスアワー(授業相談)**

メールでアポイントを取って下さい。

**学生へのメッセージ**

研究課題に関する英語文献を読んでおくこと。

自身の興味または研究テーマ・研究手法に関するガイドラインを <https://www.equator-network.org/>

で見つけて目を通しておくことが望ましい。

講義コード	6000020
講義名	医療倫理学
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	16.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	加藤 穰	医療文化学講座（英語）

### 学修目標(到達目標)

「医療倫理学」では、倫理的な看護実践に必要な諸概念を幅広い側面から学び、その理論的背景および歴史的経緯を理解することで、患者や患者家族の人権擁護、知る権利、QOLの向上など医療現場における倫理とは何かを探求することを目的とする。

<到達目標>

- ①医療と倫理の関係性について、主要な倫理理論、臨床理論から説明できる。
- ②生命倫理の諸原則、医療倫理、ケアの倫理について体系的なアプローチが説明できる。
- ③倫理的看護実践について、医療資源や政策、個人の自由と権利、アドボカシーからその方略を考察することができる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

授業では、倫理にかなう医療実践とは何かを臨床とケアシステムの視点から模索する。医療現場における倫理を考えるため、生命倫理の諸原則、医療倫理の諸概念について講義の中で再検討し、系統的なアプローチによって事例を検討し、生命倫理、医療倫理について洞察を深める。

### 授業計画表

第1回	担当教員	加藤 穰
	項目	イントロダクション 主要な倫理理論・臨床理論の基礎
第2回	担当教員	加藤 穰

	<b>項目</b>	生命倫理の諸原則とその批判としてのケアの倫理
<b>第3回</b>	<b>担当教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	専門職集団の倫理綱領とその成立
<b>第4回</b>	<b>担当教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	各受講生が自身の領域の典型的な倫理的問題事例について紹介する
<b>第5回</b>	<b>担当教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	医療資源の配分・医療政策、個人の自由と権利（事例検討）
<b>第6回</b>	<b>担当教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	高度医療における先端科学技術と倫理についての事例検討
<b>第7回</b>	<b>担当教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	各受講生が紹介した倫理的問題事例について再検討
<b>第8回</b>	<b>担当教員</b>	加藤 穰
	<b>項目</b>	総括的討論 倫理的諸問題への看護学の関与について

#### 授業形式・授業形態

- 1) 講義・演習
- 2) 受講生による事例検討

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業内でのやり取り、事例についてのプレゼンテーション、授業の最終回までに提出する事例についてのレポートによって総合的に評価を行う。

<基準> ①提示した事例について、自己の考えや気づきなどが表現できているか ②倫理の諸原則と看護実践とのつながりが理解できているか ③プレゼンテーションで提示した資料の構成に倫理的側面の学びが表現されているか

#### テキスト（教科書等）

必要に応じてハンドアウトを配布、またはオンラインのリソースを指定する。

#### 参考文献等

授業時に適宜指示する。

霜田求編・加藤穰他著『テキストブック生命倫理（第2版）』2022年 法律文化社

#### オフィスアワー(授業相談)

随時（電子メールでアポイントメントを取ることが望ましい）

#### 学生へのメッセージ

自身の所属機関および所属専門職団体の倫理関連文書に目を通しておくことが望ましい。



講義コード	6000030
講義名	看護教育学
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	16.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座

### 学修目標(到達目標)

1. 看護学教育およびキャリア教育における現状と課題を説明することができる。
2. 国内外の看護教育における諸理論を理解し文献検討やクリティークを通じて現状の課題を説明することができる。
3. 看護学修者・看護職者や組織にあわせた教育や支援の課題解決を展開するための具体的方略を議論することができる。
4. 看護教育及び実践における多職種連携の課題について考察できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

看護職者に対する教育を担うための教育的機能を果たすために必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。特に途切れない支援体制の構築やサービス利用者の価値観を尊重した保健医療福祉の一体的提供（value based medicine）、さらには医療の高度化・複雑化に伴う医療の変化に対応するために必要とされる多職種連携の視点を踏まえた看護教育や、実践の中におけるキャリア開発の支援・教育、コミュニケーション教育に関する教育的課題について知識と技術を習得する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	河村 奈美子 玉木 朋子
-----	------	-----------------

	<b>項目</b>	看護教育学の理論と概観
第2回	<b>担当教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	看護教育プログラムの開発と評価
第3回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	看護実践に向けたコミュニケーション教育と課題
第4回	<b>担当教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	看護教育におけるICTの活用、「伝わる」講義資料とプレゼンテーションデザイン
第5回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	多職種との協働とコンサルテーション
第6回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	文献クリティーク（または教育プログラムの発表）
第7回	<b>担当教員</b>	玉木 朋子
	<b>項目</b>	文献クリティーク（または教育プログラムの発表）
第8回	<b>担当教員</b>	河村 奈美子
	<b>項目</b>	統括とディスカッション

#### 授業形式・授業形態

講義・ゼミ形式

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業の際に提出された資料と討論への参加状況、最終レポートの課題によって総合的に評価する。

<基準> 課題を的確に捉えているか。資料の批判的な吟味や討議ができたか。看護学の人材育成における教育的課題とその方策について自分なりの考えが表出・論述できたか。

#### テキスト（教科書等）

指定しない

#### 参考文献等

授業時に提示する

#### オフィスアワー(授業相談)

随時対応する

#### 学生へのメッセージ



講義コード	6000040
講義名	看護医療統計学
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	原田 亜紀子	NCD疫学研究センター医療統計学部門

### 学修目標(到達目標)

- 1.看護学研究における疫学研究手法の基本について学ぶ。
- 2.疫学研究・臨床試験の実例と解析方法を学ぶ。
- 3.Reporting Guideline 「CONSORT (RCT論文)」、「STROBE (観察研究論文)」、「RECORD (データベース研究)」、「PRISMA (メタアナリシス論文)」を用い、論文のクリティカルリーディングを行う。
- 4.看護学研究論文作成において、統計解析上の問題点や近年の解析手法の動向を学ぶ。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

医学・看護学研究においては、RCT (介入研究) の実施が難しい場合も多く、観察研究、近年ではデータベースを利用した研究も増加し、これらが研究全体に占める割合が大きい。また公表された研究間で得られた結果が一致しない場合や個々の研究の標本サイズが小さく有意な効果を見いだせないことが多い。このため、エビデンス評価のためには、複数の研究のデータを収集し統計的方法にて結果を統合するメタアナリシス研究が重要である。本講義では、Evidence-Based Nursing, Practice に不可欠である疫学研究・臨床試験及びメタアナリシスの論文の読み方、統計解析手法を学ぶことを目的とする。各研究デザインの投稿ガイドラインについては、講義において例題をとりあげ、Reporting Guideline に沿って解説を行う。講義後に自身の関心領域の論文を選択し、クリティカルリーディングを行いレポートを提出する。

### 授業内容

到達目標 1、2 については、講義を中心に行う。3 については、オンデマンドによる講義を受講し、演習を実施する。4、5 については、Reporting guideline に沿った論文のクリティカルリーディング演習を通じて、統計学的手法の解説、近年用いられる手法の紹介を行う。

### 授業計画表

第1回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	疫学・生物統計学入門
第2回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	臨床試験 -SPIRIT-
第3回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	RCT論文のみかた -CONSORT-
第4回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	疫学観察研究のみかた -STROBE-
第5回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	メタアナリシス論文のみかた -PRISMA-
第6回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	生存時間解析
第7回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	QOLデータのみかた -SPIRIT-PRO-
第8回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	SAS解析演習オリエンテーション
第9回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：2群の比較 (Continuous and Categorical data)
第10回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：一般線形モデル (1) 回帰分析
第11回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：一般線形モデル (2) ANOVA 混合モデル
第12回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：一般化線形モデル ロジスティック回帰, Poisson 回帰
第13回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：一般化線形混合モデル
第14回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：生存時間解析
第15回	担当教員	原田 亜紀子
	項目	解析演習：主成分分析, 因子分析, クラスタ分析, 潜在クラス分析

### 授業形式・授業形態

講義、講義後の課題演習（論文のクリティカルリーディング）
<b>成績評価方法（成績評価基準を含む）</b>
演習(50%)およびレポート(50%)により、学修目標（到達目標）の達成度に基づき総合的に評価し、合計が60%以上を合格とする。 ＜基準＞ 1. 看護学研究における疫学研究手法の基本を理解しているか 2. 疫学研究・臨床試験の実例と解析方法の基本を理解しているか 3. 研究デザインに応じて、準拠すべき論文執筆ガイドラインが選択できるか 4. 看護学研究論文作成における近年の解析手法の動向を理解しているか
<b>テキスト（教科書等）</b>
講義内で資料を配付する。
<b>参考文献等</b>
Althouse AD, Below JE, Claggett BL, Cox NJ, de Lemos JA, Deo RC, Duval S, Hachamovitch R, Kaul S, Keith SW, Secemsky E, Teixeira-Pinto A, Roger VL. Recommendations for Statistical Reporting in Cardiovascular Medicine: A Special Report From the American Heart Association. Circulation. 2021;144(4):e70-e91
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
必要時、担当教員にメールで連絡してください。
<b>学生へのメッセージ</b>
博士前期課程で教授した基本的な疫学の知識を修得していることが望まれる。

講義コード	6000050
講義名	保健医療行政論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	三浦 克之	NCD疫学研究センター予防医学部門

### 学修目標(到達目標)

日本とアジア各国、そして欧米各国の保健医療行政施策、法制度、行政機構を理解する。特にNCD克服のための公衆衛生行政施策とその効果を理解する。また、公衆衛生行政における疾病の予防活動の実際と保健医療従事者（主として保健師）の果たす役割について概説する。NCDの予防活動における原理原則と活動の実際に関する基礎的知識を身につける。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

日本とアジア各国、そして欧米各国の保健医療行政施策、法制度、行政機構を理解する。特にNCD克服のための公衆衛生行政施策とその効果を理解する。また、公衆衛生行政における疾病の予防活動の実際と保健医療従事者（主として保健師）の果たす役割について概説する。NCDの予防活動における原理原則と活動の実際に関する基礎的知識を身につける。

### 授業計画表

第1回	担当教員	三浦 克之
	項目	社会保障の基本理念
第2回	担当教員	三浦 克之
	項目	保健医療行政総論
第3回	担当教員	三浦 克之
	項目	日本の保健医療制度

第4回	担当教員	三浦 克之
	項目	日本の保健医療関連法規
第5回	担当教員	三浦 克之
	項目	日本の産業保健システム
第6回	担当教員	三浦 克之
	項目	日本の地域保健システム
第7回	担当教員	三浦 克之
	項目	欧米の保健医療制度
第8回	担当教員	三浦 克之
	項目	欧米の保健・医療行政システム
第9回	担当教員	三浦 克之
	項目	アジア各国における保健医療行政
第10回	担当教員	三浦 克之
	項目	政策疫学の方法
第11回	担当教員	三浦 克之
	項目	演習1 保健医療行政の課題抽出
第12回	担当教員	三浦 克之
	項目	演習2 解決策の検討
第13回	担当教員	三浦 克之
	項目	演習3 課題解決における倫理的問題の検討
第14回	担当教員	三浦 克之
	項目	演習4 課題発表と相互討論
第15回	担当教員	三浦 克之
	項目	演習5 課題発表と相互討論

#### 授業形式・授業形態

講義（遠隔含む）

講義および討論、レポートは原則として英語とする。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

演習(50%)およびレポート(50%)により、学習目標の到達度を総合的に評価し、合計が60%以上を合格とする。

<基準>

- ① 根拠に基づく健康政策決定の過程を理解しているか
- ② 日本と諸外国の保健医療施策や法制度の特徴を理解しているか
- ③ ハイリスクストラテジーとポピュレーションストラテジーの概念を理解しているか
- ④ 疾病の予防活動における保健医療従事者の役割を理解しているか

#### テキスト（教科書等）



**参考図書Reference**

Spasoff RA. Epidemiologic Methods for Health Policy. Oxford textbook of Public Health  
Naidoo & Wills (2009) Foundation for Health Promotion 3rd edition. Bailliere Tindall  
Marmot & Wilkinson (2005) Social Determinant of Health 2nd edition. Oxford  
Naidoo & Wills (2010) Developing Practice for Public Health and Health Promotion.  
Bailliere Tindall

**参考文献等**

講義内で指示する。

**オフィスアワー(授業相談)**

必要時、主担当教員にメールで連絡してください。

**学生へのメッセージ**

講義内で指示する。

講義コード	6000060
講義名	生涯発達看護実践科学特論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
准教授	山口 亜希子	臨床看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座

### 学修目標(到達目標)

生涯発達理論から人の健康課題について理解できることを目標に、脳卒中・循環器疾患・がんといった非感染性疾患や加齢に伴うフレイルの発症予防、女性の生涯にわたる心身社会的な健康課題について、革新的看護ケアを創出するための基礎的知識とケア実践のための倫理上の課題について習得する。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

ライフステージ各期において多様な健康課題を抱える対象者とその家族のケアニーズについて、最善となる看護臨床実践の開発と評価を考究し、生涯発達理論に基づきエビデンスのあるケア倫理をふまえた革新的看護を探究する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	立岡 弓子
	項目	オリエンテーション

第2回

	担当教員	立岡 弓子
	項目	生涯発達理論と健康課題
第3回	担当教員	立岡 弓子
	項目	生涯発達からみた倫理的課題
第4回	担当教員	立岡 弓子
	項目	小児期・思春期世代の発達課題からみた健康問題
第5回	担当教員	立岡 弓子
	項目	小児・思春期世代の発達課題の健康問題と看護アセスメント
第6回	担当教員	立岡 弓子
	項目	性成熟期世代の発達課題からみた健康問題
第7回	担当教員	立岡 弓子
	項目	性成熟期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント
第8回	担当教員	立岡 弓子
	項目	更年期世代の発達課題からみた健康問題
第9回	担当教員	立岡 弓子
	項目	更年期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント
第10回	担当教員	宮松 直美 山口 亜希子
	項目	成人期世代の発達課題からみた健康問題：慢性期（超）急性期・回復期
第11回	担当教員	宮松 直美 山口 亜希子
	項目	成人期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント：慢性期（超）急性期・回復期
第12回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	老年期世代の発達課題からみた健康問題
第13回	担当教員	荻田 美穂子
	項目	老年期世代の発達課題からみた健康問題と看護アセスメント

第14回

	<b>担当教員</b>	宮松 直美 山口 亜希子
	<b>項目</b>	生涯発達からみた非感染性疾患（NCD）と切れ目ない看護実践方略
<b>第15回</b>	<b>担当教員</b>	立岡 弓子
	<b>項目</b>	生涯発達からみた女性の健康障害と切れ目ない看護実践方略

### 授業形式・授業形態

講義、グループディスカッション、ディベートを取り入れる関連科目には、看護病態管理学特論をおく。

### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

課題レポートで評価するが、発言・質疑応答の状況から総合的に判定する  
 <基準> ①課題を的確にとらえているか ②論旨が一貫しているか ③自分の考えを的確に論理的に表現しているか ④資料の構成がわかりやすいか

### テキスト（教科書等）

上田礼子著：生涯人間発達学，改定第2増補版，ISBN-13：978-4895903998

### 参考文献等

随時紹介する。

### オフィスアワー(授業相談)

随時、口頭やメールにて受け付ける。

### 学生へのメッセージ

（事前学習）エリクソンのライフサイクル理論について

講義コード	6000070
講義名	看護病態管理学特論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	16.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	漆谷 真	内科学講座（脳神経内科）
教授	丸尾 良浩	小児科学講座
准教授	辻 俊一郎	産科学婦人科学講座（母子）

### 学修目標(到達目標)

1. 生涯発達の各段階における主要な健康障害の病態および疾病管理方針、看護ケアの概要および健康管理・疾病管理の重要性が理解できる。
2. 生涯発達の各段階で求められる看護実践上の臨床推論力を高めることができる。
3. 自身の研究課題としてとりあげる健康問題に関して、疾病管理・看護ケア実践上の今日的課題を述べることができる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

臨床実践に資する看護学研究の知見創出に不可欠な、対象者の健康障害を生涯発達別に捉え、病態に関する医学的評価および治療・療養による疾病管理方針について教授する。これらの十分な理解の上に、新たな看護ケアの方向性を考究する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	馬場 重樹
	項目	オリエンテーション・臨床推論総論

第2回	担当教員	丸尾 良浩
	項目	小児期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：小児糖尿病、先天性心疾患、小児がん
第3回	担当教員	馬場 重樹
	項目	成人期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：高血圧、糖尿病、脂質異常症
第4回	担当教員	馬場 重樹
	項目	成人期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：がん
第5回	担当教員	漆谷 真
	項目	老年期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：認知症
第6回	担当教員	辻 俊一郎
	項目	周産期の主要な病態と疾病管理・看護職による臨床推論：妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病
第7回	担当教員	馬場 重樹
	項目	トランジションを見据えた栄養管理（小児期から成人期、成人期から老年期）
第8回	担当教員	馬場 重樹
	項目	トランジションを見据えた慢性疾患管理（小児期から成人期、成人期から老年期）

#### 授業形式・授業形態

科目担当教員と医学科専任教員による講義と、履修生を含めたグループディスカッションにて進める。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

課題レポートで評価するが、発言・質疑応答の状況から総合的に判定する。＜基準＞ ①課題を的確にとらえているか ②論旨が一貫しているか ③自分の考えを的確に論理的に表現しているか

#### テキスト（教科書等）

特に指定しない。講義時に資料を配布する。

#### 参考文献等

随時紹介する。

#### オフィスアワー(授業相談)

随時、メールにて受け付ける。

### **学生へのメッセージ**

講義で取り上げられた健康障害に関して、疾病管理・看護ケア実践上の今日的課題について自身の意見をレポートする。

講義コード	6000080
講義名	NCD看護疫学特論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	16.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	三浦 克之	NCD疫学研究センター予防医学部門

### 学修目標(到達目標)

1. Research questionを生成する際の鍵概念が理解できる。
2. Research questionを解決するための研究デザインを選択できる。
3. 研究デザイン・主要評価指標に応じた解析方法を選択できる。
4. 研究結果を適切に解釈できる。
5. 研究の限界を適切に述べることができる。
6. 疫学研究における倫理的諸問題と対象者の人権擁護のための留意事項が理解できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

疫学研究の考え方と研究方法を用いて、看護実践上の課題を解決しうる研究デザインと研究過程で生じうる問題および解決法を、先行研究の批判的吟味および研究計画立案過程から考える。また、疫学研究における倫理的問題について、先行研究に学び、自身の研究課題での留意事項を考える。

### 授業内容

・健康を評価するための指標およびその定義や測定方法、各自の研究課題を焦点化し仮説生成するための基本的な考え方、仮説の検討のために適した研究デザイン、対象者の人権擁護を含む研究遂行上重要な留意点等に関する知識をもとに、自身のClinical questionから具体的な研究仮説を生成するプロセスを学ぶ。



・研究仮説の検討に必要な具体的なデータ収集と解析のプロセスをグループ演習での検討・立案を通して学ぶ。

## 授業計画表

第1回	担当教員	三浦 克之
	項目	疫学・臨床疫学の基本：NCD疫学研究の歴史に学ぶ
第2回	担当教員	宮松 直美
	項目	コホート研究：研究例の紹介と検討
第3回	担当教員	宮松 直美
	項目	コホート研究の計画立案：PECO、看護事象の変数化、倫理的配慮
第4回	担当教員	宮松 直美
	項目	症例対照研究：研究例の紹介と検討
第5回	担当教員	宮松 直美
	項目	症例対照研究の計画立案：PECO、看護事象の変数化、倫理的配慮
第6回	担当教員	宮松 直美
	項目	介入研究：研究例の紹介と検討
第7回	担当教員	宮松 直美
	項目	介入研究の計画立案：PICO、看護事象の変数化、倫理的配慮
第8回	担当教員	宮松 直美
	項目	研究計画発表と討論

## 授業形式・授業形態

グループワークおよび発表・相互討論、演習を行う。  
一部オンデマンド配信の講義を行う。

## 成績評価方法（成績評価基準を含む）

演習(50%)およびレポート(50%)により、学習目標の到達度を総合的に評価し、合計が60%以上を合格とする。

<基準>

- ①Research questionを解決するための研究デザインを選択できる。
- ②研究デザイン・主要評価指標に応じた解析方法を選択できる。
- ③先行研究の研究結果と研究の限界が理解できる。
- ④疫学研究における倫理的諸問題と対象者の人権擁護のための留意事項が理解できる。

## テキスト（教科書等）

講義内で資料を配付する。

## 参考文献等

ロスマンの疫学 第2版 Kenneth J. Rothman著, 矢野 栄二他 監訳 篠原出版新社  
田中司朗 他. 短期集中！オオサンショウウオ先生の糖尿病論文で学ぶ医療統計セミナー～疫学

研究・臨床試験・費用効果分析. 羊土社. 2019. ISBN 978-4-7581-1855-2

福原俊一. 臨床研究の道標 上巻・下巻. 第2版 iHope

### **オフィスアワー(授業相談)**

必要時、主担当教員にメールで連絡してください。

### **学生へのメッセージ**

博士前期課程で教授した基本的な疫学の知識を修得していることが望まれる。

講義コード	6000100
講義名	コミュニティケア特論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	16.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座

### 学修目標(到達目標)

1. コミュニティにおける主体性を涵養する意思決定と行動に関する理論について説明できる。
2. 多職種連携(IPW)と多職連携教育(IPE)について説明できる。
3. 地域における多様なコミュニティの参加と自立のプロセスと支援について説明できる。
4. コミュニティにおけるケアの連続性と質の保証、ケアにおける倫理上の課題について議論できる。
5. 多様な文化や価値観を踏まえた共創的なコミュニティケアのあり方を展望することができる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

病院・施設・地域の垣根を越え、コミュニティの中の途切れない支援体制の構築およびコミュニティメンバーの文化や価値観を尊重した保健医療福祉の提供 (value based medicine) 、さらには地域の健康課題の複雑化・多様化に対応する共創的なコミュニティのあり方と倫理に配慮した支援に関する知識を修得する。

### 授業計画表

第1回	担当教員	辻村 真由子
	項目	コミュニティケアに関する理論および鍵概念

第2回	担当教員	辻村 真由子
	項目	多職種連携(IPW)の理論と実践
第3回	担当教員	辻村 真由子
	項目	多職種連携教育(IPE)の理論と実践
第4回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	市民・当事者と専門職者の共創およびエンパワメント
第5回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	当事者コミュニティのエンパワメントと倫理的課題
第6回	担当教員	辻村 真由子
	項目	在宅介護とテクノロジーの共創および倫理的課題
第7回	担当教員	辻村 真由子
	項目	多様な文化・価値観を尊重した合意形成のプロセス
第8回	担当教員	辻村 真由子
	項目	統括とディスカッション

#### 授業形式・授業形態

講義・ゼミ形式

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業の際に提出された資料と討論への参加状況、最終レポートの課題によって総合的に評価する。

<基準> 課題を的確に捉えているか。資料の批判的な吟味や討議ができたか。コミュニティーケアの発展に関する自分なりの考えが表出・論述できたか。

#### テキスト（教科書等）

指定しない

#### 参考文献等

授業時に提示する

#### オフィスアワー(授業相談)

随時対応する

#### 学生へのメッセージ

授業内容の予習および復習

講義コード	6000110
講義名	看護管理学特論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
時間	16.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座

### 学修目標(到達目標)

- 1.看護管理学における主要な概念や理論について説明できる。
- 2.看護管理学の観点から保健医療福祉システムの課題を説明できる。
- 3.創造的・実践的な課題解決のための思考法について説明できる。
- 4.保健医療福祉領域のケアの在り方を検討するために、システム思考とデザイン思考を活用する可能性について述べることができる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

#### 【教育目的】

保健医療福祉領域をはじめとする複雑系社会システムにおいて、安全で質の高いケア環境を実現するためには、様々な要素を取り上げたうえで、関連性を考慮しつつ全体を俯瞰しながら解決策を導きだすことが求められる。そこで、看護管理学の主要概念に加え、組織づくりに関する創造的かつ実践的な問題解決の方略を教授する。また、看護における組織管理に関する国内外の最新の知見と臨床での展開事例を紹介し、討議を通じてシステム創成に向けた今日的な課題解決方略の設計に関する理解を深める。

#### 【準備学修・事後学修】

各回講義のトピックについて主体的に調べるなど予習・復習し、疑問を持って授業に備えることが求められる。(各回所要時間：1時間程度)

### 授業計画表

第1回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	看護サービスを支える組織運営の基盤となる経営学・心理学の理論
第2回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	リーダーシップと動機づけ・組織変革と戦略的意思決定
第3回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	システム論に基づく医療安全とレジリエンス・エンジニアリング
第4回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	多職種連携とストレス管理・パフォーマンス向上方略(Team STEPS)
第5回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	組織の変革・創成の基盤となるシステム思考とデザイン思考
第6回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	システム思考に基づく分析手法と組織課題の抽出：事例検討
第7回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	インサイト発見のための現場調査（タイムスタディ等による行動観察・医療情報データなど）とデザイン思考（発想法）
第8回	担当 教員	笠原 聡子
	項目	統括とディスカッション

#### 授業形式・授業形態

【授業形式】

講義・討論形式

【授業形態】

原則対面での講義形式（zoom等でのオンライン講義も含む）

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業の際に提出された資料と討論への参加状況、最終レポートの課題によって総合的に評価する。

<基準> 課題を的確に捉えているか。資料の批判的な吟味や討議ができたか。看護管理学の今日的な課題解決方略の設計に関する自分なりの考えが表出・論述できたか。

#### テキスト（教科書等）

指定しない

<b>参考文献等</b>
講義の中で随時紹介する
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
随時対応する

講義コード	6000120
講義名	ケアシステム創成看護科学特論
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座

### 学修目標(到達目標)

1. 様々な場におけるヘルスケア領域の課題解決に向けた看護実践やシステムの創成に関わる主要概念と方法論を説明することができる。
2. ケアシステムやコミュニティの中の個人だけでなく個人間の紐帯や相互作用がもたらす課題解決への影響やその伝播を分析・洞察・論理的に説明することができる。
3. ケアシステム創成の先事例の討論に基づき、健康格差をなくすための看護課題の解決に向けたケアシステムの創成とその持続可能性を高める方略についてコミュニティケアと看護管理の視点から批判的に考察し、論述することができる。
4. ケアシステムの影響を受ける対象や特定集団の尊厳や利害に関する倫理的課題を調整しケアシステムの創成に必要な知識・技術を説明できる。

### 授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)

保健医療福祉の複合的な課題解決に向けて、住民、専門職、行政など多様な人々との連携・協働によるケアシステムの創成とその持続可能性を高めるための理論や概念を理解し、高齢者の家族介護・高齢者の居所と医療に関する意思決定といった個人の選択と尊厳に関わる倫理的かつ具体的な事例に関する討論を通して、包括的かつ継続的なケアシステム創成とその社会実装化のための能力を養う。



## 授業計画表

第1回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念①
	内容	健康投資、健康インフラ
第2回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念②
	内容	女性の健康と健康施策、ソーシャルキャピタル
第3回	担当教員	辻村 真由子
	項目	ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念③
	内容	エビデンスに基づく実践の普及と実装に資する研究の推進
第4回	担当教員	笠原 聡子
	項目	ケアシステム創成と持続にかかわる主要概念④
	内容	質評価、アウトカム評価、プロセス評価
第5回	担当教員	辻村 真由子
	項目	訪問看護の人材育成のしくみづくり①
	内容	役割移行理論、成人学習理論、組織学習理論
第6回	担当教員	辻村 真由子
	項目	訪問看護の人材育成のしくみづくり②
	内容	日本における新卒訪問看護師育成の事例
第7回	担当教員	辻村 真由子
	項目	訪問看護の人材育成のしくみづくり③
	内容	海外の事例（イギリス等）
第8回	担当教員	辻村 真由子
	項目	地域における在宅ケアロボットの活用①
	内容	日本の事例
第9回	担当教員	辻村 真由子
	項目	地域における在宅ケアロボットの活用②
	内容	海外の事例

第10回	担当教員	笠原 聡子
	項目	病院での新システム導入と拡充の評価①
	内容	RRS 等
第11回	担当教員	笠原 聡子
	項目	病院での新システム導入と拡充の評価②
	内容	転倒防止等
第12回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム①
	内容	医療—介護の連携における看護の位置付け
第13回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム②
	内容	生活の場における医療介護ニーズへの対応と個人の選択と尊厳を基盤にした意思決定支援を含む家族支援
第14回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	コミュニティにおける高齢者の看取りと連携システム③
	内容	専門職依存からの転換による看取りの成功事例
第15回	担当教員	伊藤 美樹子
	項目	総括とディスカッション
	内容	

#### 授業形式・授業形態

講義・ゼミ形式

第1回～第4回は主要概念の理解を深化させるため、複数教員で担当し、それぞれの専門領域における見地からの討議を行う。

#### 成績評価方法（成績評価基準を含む）

授業の際に提出された資料と討論への参加状況、最終レポートの課題によって総合的に評価する。

<基準> 課題を的確に捉えているか。資料の批判的な吟味や討議ができたか。ケアシステム創成看護科学の深化と発展に関する自分なりの考えが表出・論述できたか。

#### テキスト（教科書等）

指定しない

<b>参考文献等</b>
授業時に提示する
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>
随時対応する
<b>学生へのメッセージ</b>
授業内容の予習および復習

講義コード	6000140
講義名	看護学特別研究
Lecture name	博士後期
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	通年
講義区分	演習
基準単位数	6
時間	180.00
代表曜日	
代表時限	

ナンバリングコード

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員

職種	氏名	所属
教授	立岡 弓子	臨床看護学講座
教授	馬場 重樹	基礎看護学講座
教授	笠原 聡子	基礎看護学講座
教授	宮松 直美	臨床看護学講座
教授	桑田 弘美	臨床看護学講座
教授	喜多 伸幸	臨床看護学講座
教授	辻村 真由子	公衆衛生看護学講座
教授	伊藤 美樹子	公衆衛生看護学講座
教授	河村 奈美子	公衆衛生看護学講座
准教授	玉木 朋子	基礎看護学講座
准教授	山口 亜希子	臨床看護学講座
准教授	荻田 美穂子	臨床看護学講座
講師	山下 敬	基礎看護学講座

**学修目標(到達目標)**

- 1.研究課題の背景から研究目的・目標に合致した研究方法論を選択し、国内外の文献レビューとフィールドワークを通じて、生涯発達看護実践科学、ケアシステム創成看護科学の構築に必要な研究課題を設定し、精度の高い研究計画書を作成することができる。
- 2.設定した研究課題について、研究計画を主体的に立案・遂行することができ、研究方法論を

正確に適用し、倫理的配慮に基づきデータを収集・分析する。

3.生涯発達看護実践科学、ケアシステム創成看護科学としての科学的かつ学術的に意義のある博士論文を作成することができ、研究の概要について簡潔に説明できる。

4.国内外の学会および学術誌に筆頭著者として成果公表を行い、生涯発達看護実践科学部門、ケアシステム創成看護科学部門の研究をリードする能力を修得でき、看護学研究に必要な研究的態度が理解できる。

#### **授業概要(教育目的・準備学修・事後学修・履修要件等)**

1. 多様な健康課題を抱える対象者とその家族のケアニーズについて、また病院から地域を繋ぐ健康課題の解決に向けた持続可能なケアシステムの創成について、最善となる看護実践の開発に資する研究に取り組む。

2. 個人の専門領域に従って、国内外の文献レビュー・研究課題の明確化・研究デザインおよび方法の選択・研究計画書の立案・データ収集・分析・論文化までの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養う。

3. 研究倫理審査委員会への受審、研究助成金申請書類の書き方を教授し、その対応能力を養う。

4. 研究プロセスにおいて、多領域からなる専門家の意見交換を通じて様々な研究的視点を理解し、自立して研究を行うための能力を修得する。

#### **授業内容**

##### **<1年次>**

国内外の関連文献の精読を通し、必要時には臨床ワーク計画を立てて研究課題の焦点化と具体化を行う。

研究計画書提出の時期を設定し、研究計画書の作成と人を対象とする研究の場合には、研究倫理審査委員会への申請と審査、承認を受ける。

##### **<2年次>**

研究計画書に基づき、データ収集・分析を行い、適宜その適切性を評価する。QEの受審と結果及び考察の論述を行い、論文執筆とジャーナル投稿を行う。

##### **<3年次>**

博士論文執筆、ジャーナルへの論文の受理

博士論文の提出と本審査の受審

博士論文発表会において発表

#### **授業計画表**

#### **授業形式・授業形態**

グループディスカッション、ディベートを取り入れる

#### **成績評価方法(成績評価基準を含む)**

研究プロセスへの取り組み状況、作成した研究計画書・口頭試問・研究論文により総合的に評価する。

研究計画書(20%) 論文審査での発表と質疑応答の内容(30%) 博士論文(40%) 取り組み状況(10%)

#### **テキスト(教科書等)**

指定しない

**参考文献等**

主研究指導教員より適宜紹介する

**オフィスアワー(授業相談)**

随時、面談を実施するが、その他メール等で連絡をとり、積極的にコンタクトをとっていくこと。